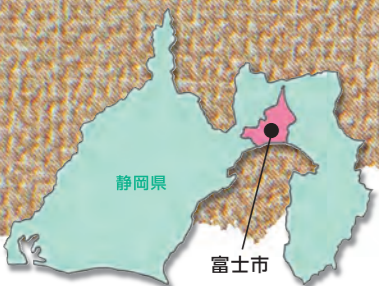


再生紙100%の「グリーンキーパー」は、使うだけで参加できる、身近な環境活動です。



再生紙を通じてエシカル消費の啓発活動
を続けるコアレックス信栄株式会社



グリーンキーパー製造のようす。工場見学を
積極的に受け入れ、のべ1万人以上が訪れた。



使用した水は「浄化処理」を経て、
完全にきれいにしてから、川や海へ放流。

森林資源の番人を意味する『グリーンキーパー（GREEN KEPPER）』は、誕生から今年で36年を迎えます。まだ『エシカル※』『箱なし』『再生紙100%』というスタイルを貫いてきました。使うこと
主体で築き上げた『循環型リサイクル』の歴史そのものです。

※エシカルとは…『倫理的』という意味。自分たちの利益だけでなく、環境や社会に配慮した商品を選んで購入する『倫理的消費』のこと。

『紙は紙から』廃棄物ゼロのゼロエミッションを貫く コアレックス信栄株式会社

製造工場のある静岡県富士市は、豊かな湧き水に恵まれた『水の都』です。再生紙づくりに不可欠な古紙の汚れを落とす『洗浄』工程に、清らかな水をふんだんに活かしています。

同時に、この水資源を守るため廃棄物ゼロを徹底しており、高度な浄化システムを経た排水は、再び自然へと還されます。こうした先進的な製造環境こそが、『グリーンキーパー』の確かな品質を支える強みとなっています。

発売から今年で36年。

『グリーンキーパー』進化の歴史

1988年「元祖エシカル」の登場

1988年にコープこうべで生まれ、1990年にコープ商品として全国展開されました。同年、エコマークを取得。80年代の深刻なゴミ問題を背景に、「家庭のゴミを減らしたい」「自分たちの出す牛乳パックを資源にしたい」という組合員の声が開発の原点です。当時、ティッシュは『紙箱入り』が常識でしたが、ゴミ減量のために『ソフトパック（フィルム包装）』を採用。これは革新的な挑戦でした。

増量とスリム化：時代に合わせた進化

近年のリニューアルでは、1パックの枚数を『180組』から『220組』へ増量し、セット数を『5個組』へと変更。これにより、交換頻度を減らし、収納場所のスリム化を図りました。

2024年日本生協連が『エコマークアワード』で最優秀賞を受賞



株式会社ユアサ 八野さんに聞く

『グリーンキーパー』のヒミツ



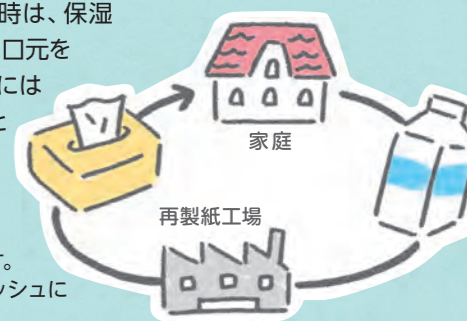
Q なぜ『牛乳パック』のリサイクルが大事なのですか？

A 牛乳パックは『最高品質』の資源だからです。パックに使われているパルプは繊維が長く、とても上質。これを燃えるゴミとして捨ててしまうのは、もったいない！たとえコープの商品に戻らなくてもいいから、とにかく分別してほしいと思います。



Q 少し『硬め』な気がするのですが、上手な使い分けのコツはありますか？

A 再生紙100%にこだわる『グリーンキーパー』は、ちょっと硬めかもしれませんが、それは資源を大切に使いきっている証です。再生紙は一度使われている分、どうしても繊維がもろくなりがち。破れにくくするために、牛乳パックなどの上質な繊維を混ぜることで強度を保っています。花粉症などで何度も鼻をかむような時は、保湿ティッシュを。食事中に口元を拭いたりする普段使いには「グリーンキーパー」をおすすめします。



リサイクルのイメージです。すべての紙パックがティッシュになるわけではありません。



『牛乳パック』は捨てないで！

組合員のみなさんが出してくれた牛乳パックは、形を変えて、またみなさんの暮らしへと戻ってきます。

株式会社ユアサ(企画・販売)
八野 良隆さん



ていねいなくらしの中で、利用する商品を替えるだけで参加できるエコ活動。
みんなで継続していきませんか？